

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第15号



▲さいたま市肢体不自由児・者父母の会「生活訓練事業・身体をとおしたコミュニケーション」



▲NPO 法人さいたま市障害難病団体協議会
「生活訓練事業・動脈硬化の効果的な予防」



さいたま市身体障害者福祉協会
「家族教室・後期高齢者医療制度と障害者」▶

訓練も講習も楽しく効果的に
平成二十年度さいたま市社会参加
推進センター事業

問題を多角的に捉えて取り組みました 今年の社会参加推進事業

生活訓練事業

手話の文化

さいたま市聴覚障害者協会
牧野 悦子

二月二十八日、埼玉県障害者交流センターホールにて、「平成二十年度さいたま市障害者社会参加推進センターの生活訓練事業「手話の文化」を実施しました。参加者は八十一名でした。「手話の文化」の内容は、手話ダンスサークル浦和さくら草の会による手話ダンスと、宮川氏による手話落語を行いました。手話ダンスは、振り付けに手話を取り入れて踊るものです。「いい日旅立ち」「故郷」等8曲の演技でした。登場した方々の中



▲手話をしながらダンス

には聴覚障害者が5〜6人いました。他は健聴者です。聴覚に障害があっても音楽やダンスを楽しめることや、手や身体で感情を表現する美しさを感じていただけたかと思えます。

また、歌詞をOHPで映したので、客席にいる聴覚障害者だけでなく、手話が分からない聴者にとっても分かりやすかったです。

手話落語では、まず、手話落語のしきたり等の講演がありました。講演では手話通訳と要約筆記が付きましたが、手話落語とパント落語では手話通訳も要約筆記も付きませんでした。

手話落語「小咄」、パント落語「庄屋」は、手話と身振りによるものでした。客席の聴覚障害者の方々は十分楽しめたようですが、手話が分からない健聴者の方々には分かりにく

かったかもしれません。ですが、この企画を通して、手や表情などで感情表現ができること、手話は目でみる言葉であり、聴覚障害者にとって大切な言語であることを理解していただけたと思えます。

家族教室

精神障がい者を
引きこもらせない
ために

さいたま市精神障害者
家族会連絡会

川島 哲也

二〇年度の精神障害者家族教室は、九月二十一日(日)、浦和コミュニティセンターで開催、参加者は折からの大雨などもあるが、七十六名(うち、一般は二十九名)とやや少な目でした。

不可欠な家族のケア

第一部は「必要な精神疾患への早期支援」と題し、日本精神神経科診療所協会副会長 平川博

之先生による講演会で、十九年十二月に同協会が実施した「治療を受けている精神障害者の実態調査」について、報告書等に基

社会参加推進

事業の成果

さいたま市保健福祉局
福祉部障害福祉課
細見 俊孝

六年前に本市の社会参加推進センターが発足以来、途中自立支援法の施行により、一部内容変更を余儀なくされた事業等もございましたが、どの事業も着実に進歩を遂げてきたと感じております。

例えば、市が事業を委託しております、生活訓練等事業や障害者週間記念事業では、当初は手探り状態で、事業を実施するための打ち合わせでも、「市としての考えはどうなのですか」とか、「市ではどこまで手伝ってもらえるのですか」等の質問が多く、自主性の部分が不足していた感があります。また、障害

者週間記念事業では、主体となる団体以外は当日の参加が殆んど無いなど、障害者団体間の連携も乏しい印象を受けました。

ところが、経験を重ねるうちに、事業委員会での積極的な意見交換や、少ない予算の中で、できるだけ良い事業にしたいという様に、意識が変化してきました。この事で、事業が、着実に充実した内容となり、関係者が、来年はさらに良いものを作ってきていらっしやる事が伝わってきます。

大切なのは、社会参加推進センターの事業が、連携強化により、自分たちが真に実施したい事業に近づいてきている事だと思えます。今後は、すべての事業にこの経験を活かされ、障害者社会参加推進センターの事業を実施される事を祈念いたします。



びき詳細な説明がありました。

それによると、対象患者のうち、日中特に何も活動していない人が全体の25%、また精神科診断病者の68%が就労就学をしていない。さらに精神病性障害者（主に統合失調症）の平均受診時間は約5分という結果になっています。このうち、最近6ヶ月以上就労就学をせず、デイケ

ア、作業所等にも通所していない者を「外来ニート」(仮称)と定義づけ、その調査を行った結果、疾患別ニートの出現率は全患者16%、知的障害34%、統合失調症28%等。また、ニート患者は両親同胞とのみ同居している率が高い。親との同居は86%。

調査のまとめは以下の通り。

①家族と同居の場合、一日中家族にケアを強いる。

②家に引きこもると、特に家族の負担は過重になり、患者再発のリスクも高まる。

③対策としては、自宅などに訪問のサービスが必要。そのためには行政や医療機関等の窓口が相談にのり、必要なサービスにつなぐ「ケアマネジメントと家族のケア」が不可欠です。

第二部のパネルディスカッションでは、「家族体験から望む医療と社会の役割」と題し、四家族による貴重な体験発表がありました。



春木先生の手がやさしくふれると、ふわっとあたたかくなって…

生活訓練事業

身体をとおした コミュニケーション

さいたま市肢体不自由
児・者父母の会

会澤 葉子

一月三十一日(土)中央区の鈴谷公民館に於いて「身体をとおしたコミュニケーション」と題して、日頃より父母の会の訓練会で世話になっていている春木豊先生(県立川島ひばりが丘養護学校教諭)を講師に迎え、動作法を基にした訓練会を開催しました。

当日は、夜からの雨が降り続

くあいにくの天候でしたが、車イスの親子、ヘルパー、福祉施設職員、ボランティア経験者など様々な立場の人たちが、五十三名参加してくださいました。

会場の和室にはブルーシートを敷いて、入口の段差にはレンタルしたスロープをセッティングし、車イスの人には、そのまま上がってもらえる様にしました。これは、とても良かったと思います。訓練会の前半は、資料を基にした動作法による



取り組み方の説明がありました。ユーモアを混ぜての分かり易い説明に、終始和気あいあいとした楽しい雰囲気の中で進められました。

後半の実技では、参加者同士がペアになり、先生のアドバイスを受けながら、首・肩、腰・膝、足先・足裏などをふれる側とふれられる側に交代し合いながら、副題にある「身体の訓練をとおして心も身体もほぐす。身体の緊張がとれる事で心の緊

張も和みリラックスする」事を身をもって体験しました。ふれる前には、必ずやさしく声かけをして、相手との心の距離を縮めてから始める。力を加えて、押したり引いたりするのはなく、そっと包み込むようにふれる。それだけなのに、手を離れた時には、フツと肩が軽くなった様に感じる。ジワッと足裏があたたかくなる。そんな不思議な体験に「思った以上に気持ち良かった」「身体が軽くなった」との感想が、多数寄せられました。

「来年も開催できれば良いと思う」との会員からの一言に、たとえ一朝一夕に改善される障害ではなくとも、地道に続けていく事が大切なのだと感じました。初めて訓練を経験された参加者の方々には、日々の生活の中で取り入れていただけたらと思います。また新たに親子で訓練と向き合う元氣をもらえた、有意義な一日でした。

生活訓練事業

オストメイトのための
医療講習会

(社)日本オストミー協会
さいたま市支部

松岡 英嘉

今回の講習会は今まで常に気に掛けながらも手を付けていなかった、緩和ケア「心のケア」について、講師に西明寺住職であり、また内科医でもある田中雅博先生を招き講演をお願いしました。「心のケア」はソフトな面でのケアであるため難しく、とらえ方によってはいく通りもの答えが出るように、心の問題、死への心構え、仏教的な歴史など、用語に理解できない部分もありました。



の法王庁に何度も講師として招待されている多才な能力のある方の話として、私なりに理解し納得しました。

ある会員の医療講習会感想の文面の「健全なる精神は健全なる身体に宿る」には場内から大変良い質問がありました。

講師の回答は『戦争教育に關連して一般に広く言われるようになった』だったかと思えます。ストーマに限って考えてみると障害手帳をいただいているので

確かに健常者では無い。がこのこと即、健全（健康）で無い、とは言い切れ無いのではないかと、自分勝手な結論ですとあるが、私も同感です。常日ごろ健常者と思いい行動し、障害者であることを忘れていきます。

二部講演『ストーマケア』

ET看護師 山名敏子氏

さすがに経験豊かなベテラン講師、声も大きくプロジェクター画面を見ながらの説明で解り易く、初めて参加の同憂の方々にも好評でした。質疑応答にもはつきりと答えを戴きました。

日常生活用具（補装具）の展示会は門前市をなす盛況ぶりであり、開始時間前の来訪者もありました。

今回の講習会にあたり補装具販売業者二社が、さいたま市在住のオストメイトに講習会の案内チラシ送付、協力いただいたことが、参加者一三〇名の数字になったと、紙面を借りてお礼申し上げます。

家族教室

手話教室 全8回

さいたま市難聴者・中途失聴者協会

小池 和子

さいたま市難聴者・中途失聴者協会は、家族教室「手話教室」を開講いたしました。

第1回は8月24日(日)大宮ふれあい福祉センターで行われました。

障害者協議会の浅輪様、市障害福祉課の細見様のご挨拶に続き、当協会会長代理の池澤氏の挨拶で開講しました。

1時半から、4時半までプログラムに沿っての筈でしたが、手違いでいきなり、12講座からはじまり、初めての手話の人は皆目判らなかつたようです。市報に市民対象としたために、応募者が定員35名を上回り、

70名の方が申込み、53名の参加になりました。

その中で難聴者が10人だけ、後は家族に難聴の方が数名。これだけ、手話に関心を持つ市民がいることは嬉しいことだと思います。前年に「入門」が終わり、「基礎」からでしたが、半数以上が手話が初めてという参加者の中で、教える講師も大変だったのではないかと思います。

11月の最終まで8回の講座ですが、毎回講師が変わるので、生徒もそれなりについていかなければなりません。

第4回10月5日は講師の都合で協会の金澤さんが引き受けてくれました。その日は協会会員の山下和子さんが特別講演で、自らの難聴になった体験を述べ、受講者が感銘を受け、これからの生き方に道しるべを貰ったと感想文をいただきました。

第8回の終了式は11月30日、6回以上参加の受講者に山下さんが代表で修了書をいただきました。



浅輪副会長から代表で修了証を受けた山下さん

した。暑い中での参加で良く頑張られました。講師の方々も交代の講習で、その準備も大変な事でした。心からお礼を申し上げます。また、21年度も家族教室を開催いたします。手話に関心を持つ市民の参加は勿論大歓迎ですが、市報の応募には、手話を覚えたい難聴者の優先をぜひ、お願いしたいと思います。尽力いただいた各関係の方々

家族教室

後期高齢者 医療制度と障害者

さいたま市身体障害者
福祉協会

中野 勇

私たち、さいたま市身体障害者福祉協会では、後期高齢者医療制度と障害者をテーマにして、家族教室を行うことにしました。

まず、講師の依頼にあたり埼玉県保険医協会の事務所に四名の実行委員が行き、交渉にあたりました。協会職員にするか、現場の医師にするか検討しました。その結果、医師に依頼することとなりました。

第一回は、九月十二日、岩槻の保健センター内交流室を使用し、松本光正氏に依頼しました。

第二回は、九月十四日、大宮ふれあい福祉センターで、山崎利彦氏に依頼しました。

第三回は、十月十五日、岸町公民館で橋本英二郎氏に依頼しました。

第四回は、十月二十五日、与野本町コミュニティセンターで大場敏明氏に依頼しました。

障害者にとっての後期医療制度の解説、厚労省では、「長寿を国民皆が喜ぶことができる仕組み」「ご安心下さい。今までと同じ医療を受けることができます。」としているが、いっどこで決まったのか？これだけではない医療「改革」関連法による医療費抑制策、公的医療保険の給付範囲の見直し：2兆円。高齢者の患者負担の引上げ、長期入院ベッドの食費・居住費の引上げ、高額療養費の自己負担限度額の引上げ、国民の医療を受ける範囲を決める診療報酬の切り下げがあると言う。

今回は、身障四地区の単会ごとに開催したが、理事会でも出したように「障協」が行うべきだったと思います。

平成20年度 社会参加推進センター開催事業 報告

事業名	開催日／場所	参加者	テーマ・内容等
家族教室開催事業 (身体)	8月24・31日、9月21日、 10月5・12・26日、 11月16・30日 大宮ふれあい福祉センター	400名 (延べ) 全8回	「手話教室」手話の実技指導と難聴者の体験発表 家族間の円滑なコミュニケーションを図るため、基礎程度の手話の学習を8回行いました。
家族教室開催事業 (身体)	9月12日(金) 岩槻保健センター 9月14日(日) 大宮ふれあい福祉センター 10月15日(水)岸町公民館 10月25日(土)与野本町コミュニ ティセンター	4会場 合計 220名	「後期高齢者医療制度と障害者」 それぞれの会場で埼玉県保険医協会講師が障害者にとっての後期高齢者医療制度の解説。65歳から74歳の医療費減免措置の障害者はこの制度に加入したほうがよいのか等。
家族教室開催事業 (精神)	9月21日(日) 浦和コミュニティセンター 第13集会室	76名	「精神障がい者を引きこもらせないために」 ①講師：日本精神神経科診療所協会副会長 平川博之氏 「必要な精神疾患への早期支援」 ②パネルディスカッション 大須田潤子氏 「家族体験から望む医療と社会の役割」 4名の家族による体験発表
家族教室開催事業 (知的)	10月2日(木) 埼玉県障害者交流センター ホール	48名	「地域の中で誰もが自分らしく生きていくために」 講師：さいたま市地域自立支援協議会会長 埼玉大学准教授 宗澤忠雄氏 “地域生活支援事業”についてさいたま市の取り組みや活用 例から考えることの説明。
生活訓練事業 (身体)	11月8日(土) 鈴谷公民館 大会議室	47名	「動脈硬化の効果的な予防」 講師：自治医科大学附属さいたま医療センター 川上正舒センター長 「食」をはじめとする誤った生活習慣が様々な疾病を引き起 こす影響とその改善・予防法を解説、質疑応答
「障害者週間」 市民のつどい	11月29日(土) 与野本町コミュニティセン ター	400名	障害者週間を顕彰して開催された。式典(作文表彰・朗読、 全スポメダル受賞者インタビュー)、講演、プラスバンド、 混声合唱、ゴスペル、障害者作品展、団体展示、福祉機器体 験、授産品販売など
生活訓練事業 (身体)	12月7日(日) 与野本町コミュニティセン ター ホール	85名	「福祉機器・日常生活用具勉強会」 第1部 講演：KGS(株)樽松武男氏 第2部 福祉機器8メーカーによる視覚障害者用の機器の説 明と体験学習／意見交換
生活訓練事業 (身体)	1月31日(土) 鈴谷公民館 和室	53名	「身体をとおしたコミュニケーション」 講師：春木 豊氏(県立川島ひばりが丘養護学校教諭) 講話 身体に触れる事でコミュニケーションをとり、心もリ ラックスしていく仕組みの説明 実技指導：ペアでふれる、ふれられる側になって体験
生活訓練事業 (身体)	2月15日(日) 浦和ふれあい館 ホール	122名	「オストメイトの為の医療講習会」 第1部 医師による医療講習「心のケア」田中雅博氏 第2部 ストーマケアーについて(山名敏子看護師) 補装具業者による製品展示会
生活訓練事業 (身体)	2月28日(土) 埼玉県障害者交流センター ホール	81名	「手話の文化」聴覚障害者、一般市民に手話の文化への理解 を深めてもらい、交流を図ることを目的 手話ダンス：サークル浦和さくら草の会 手話落語(手話落語のしきたり等の講演を含む)、パント落 語：宮川隆志氏

長生きが

おそろしい

田口秀之助

高齢者の高速道の逆走、交通事故、違反が多いと新聞、テレビなどで報じられています。

私も「高齢者運転適性検査」で、突然の横からの飛び出しに二度轢いてしまいました。画像だからよかったものの、かなり動作が鈍っているのがわかり愕然としています。恐ろしい。

久しぶりにやってきた娘に「お父さん運転が前より下手になったみたい」と遠慮のない言葉を浴びせられました。四十数年無事故で運転をしてきたと自

負しているのに。

私は一歳のときポリオに罹患して両下肢障害になりました。車の運転ができたお陰で就職し、活動もできたのです。

身近に免許証を返上した人も出てきました。高名な活動家のかたは娘を亡くしたとき以来の悲しみだと語っていました。大宮福祉会の長年の役員も免許証を返上したので役員を辞めたいといわれました。私はいつの間にか最年長になってしまった。

最近3人の知人が脳卒中で倒れました。お見舞いに行くど歯切れのよい話ぶりだった人が、ろれつのまわらない言葉、生氣のない顔で驚きました。オムツ

の状態とか。これからの行く末を考えると不安を通り越して恐怖に近くなっています。

子供を背負い十キロの米を買い、下げてきた女房も人工股関節、膝痛で2本の牛乳パックを買うのがやつとです。

外出が困難になることを想定して、郵貯ネットで現金を持ってきてくれる制度があるというので年金受け取りさを郵便局にしたり、ネットでの買い物、e-タックスでの確定申告などパソコンの訓練をしています。

介護保険施設情報公開のための調査員をしていますので、介護付有料老人ホームに行きますが、シーンとしていて部屋にこもっているのを見たり、特別養

護老人ホームで徘徊している認知症の人を見たりしていると、できれば入りたくありません。

身近にいる福祉のエキスパートの方々のアドバイスを受けながら出来る限りこのままで生活していきたいと願っているのですが。

事務局だより

今年度の生活訓練等事業は予算が一割ほど縮小され、九つの加盟団体でやりました。

予算は縮小でも中身はすごい！

毎年人気の手話教室、四会場で行われた後期高齢者医療制度の講習会など、それぞれの団体が一流の講師を呼んで有意義な家族教室、生活訓練を行うことができました。

各団体の準備は企画に基づいて会場、講師の手に配に始まり、実行委員会を経て当日を迎えます。一年に一回の事業といっても、開催する団体の労力は大変なものだと思います。

裏方の事務局は、各事業に少しでもたくさんの方が来てほしいと願い、市報掲載の原稿を市へお願いする仲介やチラシの作成、当日の記録写真など。当日、席がいっぱいになっているとうれしくなります。(W)

リレートーク
わたしはわたし

●田口秀之助さんプロフィール●

1932年生まれ。1歳のときポリオに罹患、後遺症により両下肢機能障害、近年ポリオ2次障害のため左手が肩より上に上がらなくなった。見沼区在住。七十代夫婦で2人暮らし。

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

一・二二二一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

nifty.com

発行人 望月

編集人 浅輪 田鶴子